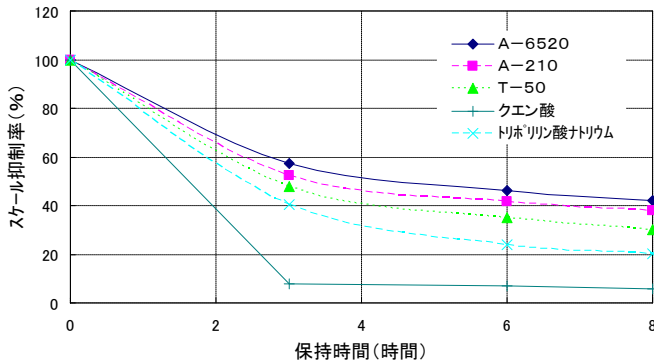


各種スケールに対する抑制能

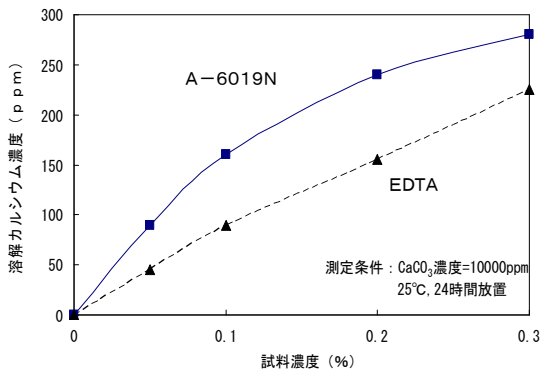
1. 炭酸カルシウムスケール



(評価方法1) 炭酸カルシウムスケール抑制能

炭酸カルシウム560ppmに対して試料濃度4ppmを加え、60°Cで所定時間保持し、その時の試験水中の溶存カルシウム濃度を測定してスケール抑制能を求めた。

- ・クエン酸、トリポリリン酸ナトリウムよりもT-50、A-210、A-6520の方が良好なスケール抑制能を示した。

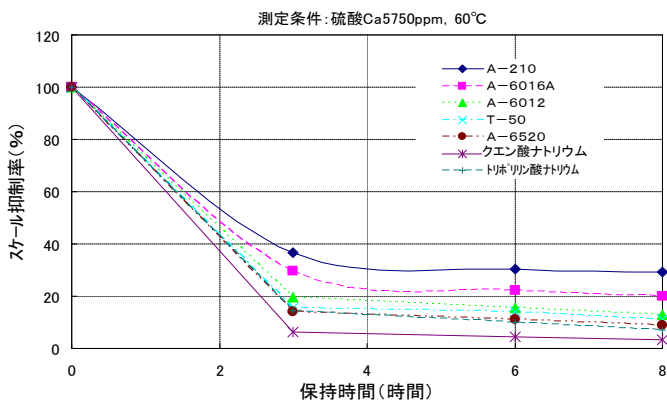


(評価方法2) 炭酸カルシウムスケール抑制能

所定の試料水溶液(pH7) 100mLに1gの炭酸カルシウムを加え、室温で24時間攪拌放置した後フィルターでろ過し、ろ液のカルシウム硬度(試料を添加することで溶解した炭酸カルシウムの量)を測定し、炭酸カルシウムスケール溶解能とした。

- ・EDTAよりもA-6019Nの方が良好なスケール抑制能を示した。

2. 硫酸カルシウムスケール

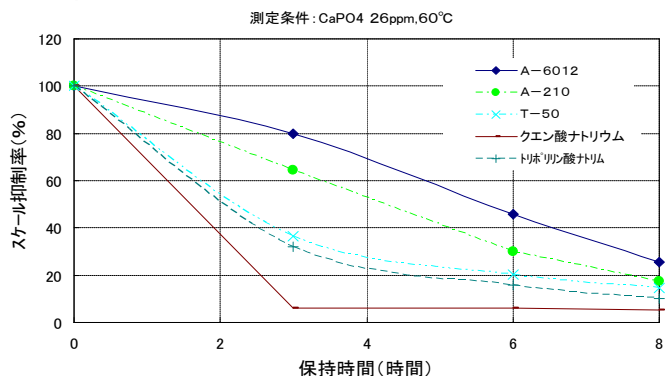


(評価方法) 硫酸カルシウムスケール抑制能

硫酸カルシウム5,750ppmに対して試料濃度4ppmを加え、60°Cで所定時間保持し、その時の試験水中の溶存カルシウム濃度を測定し、スケール抑制能を求めた。

- ・クエン酸ナトリウム、トリポリリン酸ナトリウムよりもA-210、A-6016A、A-6012、T-50、A-6520の方が良好なスケール抑制能を示した。

3. リン酸カルシウムスケール



(評価方法) リン酸カルシウムスケール抑制能
リン酸カルシウム26ppmに対して試料濃度4ppmを加え、
60°Cで所定時間保持し、その時の試験水中の
溶存カルシウム濃度を測定してスケール抑制能を求めた。

・クエン酸ナトリウム、トリポリリン酸ナトリウムよりも
A-6012, A-210, T-50, の方が良好なスケール抑制能
を示した。

4. 注意事項

法令を遵守し、弊社MSDSをご参照の上、ご利用ください。



東亜合成株式会社 ポリマー・オリゴマー事業部 ポリマー部

<http://www.toagosei.co.jp/>

本店営業部 〒105-8419 東京都港区西新橋1-14-1 TEL:03-3597-7337
大阪支店 〒530-0005 大阪市北区中之島3-3-3 TEL:06-6446-6564
名古屋支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1-4-6 TEL:052-209-8594

作成2010年1月5日

改定2020年8月-1

ここに掲載されている内容は、細心の注意を払って行われた実験事実に基づくものでありますが、保証値ではありません。